

科目・分野	週時間数	コース	クラス	担当者
家庭基礎	2	文理・生命科学	A～E	別府
目標	1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
大切に育てたいもの	関心・意欲・態度	創意工夫する能力	生活の技能	知識・理解
	かけがえのない生命に気づき、各分野において課題を考え、環境と人間生活との調和について考える態度	自分の生活の実態などから、生活課題を見だし、それを改善充実しようとする能力	実習を中心とした学習活動を通して基礎的な技術の習得	循環型社会を担う者としての各分野の基礎的な知識の習得

学期	テスト	学習内容	学習のねらい
1 学期	期末	第 1 章 自分らしい人生をつくる ・生涯発達の視点 ・これからの家庭生活と社会	各ライフステージの特徴と課題を理解する。 生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つけ、職業選択も見通す。 家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。
		第 6 章 衣生活をつくる ・衣服の役割を考える ・衣服を入手する ☆被服実習 ・被服を管理する ・持続可能な衣生活を目指して	被服の役割を理解する。 被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味を知る。 被服実習を通して、基礎的な技術を身に付け、衣服の補修など生活に活かす。 汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようにする。
		○ホームプロジェクト	生活の中に問題点を見出し、それを解決するために行う実践活動を課題とする。
		第 8 章 経済生活を営む ・職業生活を設計する ・現代の消費社会 ・これからの消費生活と環境	キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。
2 学期	期末	第 5 章 食生活をつくる ・食生活について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の安全と衛生 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ☆調理実習 ・持続可能な食生活を目指して	青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族にあてはめる。 食品の安全性について学び、食品の選択や保存、調理の際に活かす。 基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようにする。 食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようにする。
		第 7 章 住生活をつくる ・住生活の計画と選択 ・持続可能な住生活を目指して	住居の機能や間取りの基礎知識を学び、住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解する。
		第 2 章 子どもと共に育つ ・子どもの育つ力を知る ・これからの保育環境	人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状、子どもを取り巻く社会変化の現状について理解し、これからの保育環境を考える。
3 学期	期末	第 3 章 高齢社会を生きる ・これからの高齢社会	高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。
		第 4 章 共に生き、共に支える	一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。
		第 9 章 生活を設計する ・生涯を見通す	キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめ、これまでの学習を踏まえ、家族や社会との共生を目指す。
評価の方法	定期テスト・実技テスト・実習や実技課題への取り組みや完成度・提出物で評価する。		
学習活動の特徴	「理論」と「実習」の二本柱で進め、その両方を評価する。		
授業の形態	ホームルーム単位で一斉授業・実習		
使用教科書	『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍）		
用意するもの	教科書、裁縫道具		